

木曾山林資料館 研究紀要

第 1 号

令和元年度(2020年3月)

目 次

資料解題

- 木曾山林学校へ寄贈された足尾銅山の索道写真……………中畑 孝史 1
木曾山林資料館所蔵の綱場写真……………中畑 孝史 17
木曾山林資料館所蔵のカラフト林業写真……………中畑 孝史 31

資料紹介

- 当館所蔵のドイツ林学書と林業関係教科書の紹介……………山口 登 42
ドイツ林学書のリスト…………… 43
林業関係教科書(明治～昭和 23 年)のリスト…………… 49

研究ノート

- 木曾谷模型の平面図作成について……………木曾山林資料館 52
戦前の林業絵葉書の魅力と活用……………中畑 孝史 54

雑報

- 木曾山林資料館研究紀要【要綱】……………木曾山林資料館 57
木曾山林資料館研究紀要【作成要領】……………木曾山林資料館 58

研究紀要の発刊にあたって

木曾山林資料館は、平成 21 年(2009)3 月に閉校となった木曾山林高等学校の標本室に収納されていた林業並びに林業教育に関わる器械・用具・標本・写真・図書等を木曾青峰高校の空き教室で、整理・保存・展示している施設です。

平成 26 年(2014)に現在の展示スタイルを企画し、木曾山林資料館と名称を替え、4 月から 11 月末までの週 1 日（木曜日）に一般公開するようになりました。

木曾山林高校の前身である木曾山林学校は明治 34 年(1901)創立で、開校当時の資料は 120 年近く経過している古いものがあります。これらの資料は授業の中で、見たり・使ったり・調べたりした教材であるため、資料そのものの故事来歴は注目されず、収集者・寄贈者の氏名もほとんどわかっていません。特に、標本・写真等についての基礎情報（いつ・どこで・だれが・なにを・なぜ・どのように）の不足が非常に多いのが現状です。

ここ 2・3 年の取り組みで資料の整理と保存の作業が山場を越え、平行して標本・写真等の基礎調査に手を付けました。校友会報・岐蘇林友等の明治大正期に校友会が発行した雑誌を丹念にめくって、標本・写真等についての記事を探し、戦前期に発行された雑誌『大日本山林會報』や『御料林』、林業専門書、郷土資料、さらにインターネットや絵葉書等を詳細に調べ、少しずつ標本・写真等の基礎調査が進んでいます。

そこで、これらの調査研究成果を形にして残すことも、資料館の重要な仕事の一つであると考え、今回、研究紀要の刊行を決意しました。

この研究紀要の基本的なスタンスとして、当館が木曾に立地する林業教育の専門高校を受け継いでいるというアイデンティティーから研究報告は、森林・林業に関する分野、林業教育に関する分野、木曾の自然・歴史・民俗・産業等に関わる分野とし、時代の先端的テーマの研究というよりは、所蔵資料等の歴史的な位置づけや、林業教育に果たした役割を明らかにする様な視点からの研究が多くなると考えております。

論文・報告等の執筆者は、当館スタッフが主になりますが、その他に、木曾山林高校卒業生、教職員(旧職員を含む)、林業並びに林業教育等の研究者、木曾地域の文化に興味のある方を対象として、各方面からの投稿をお願いしたいと思っております。

研究紀要の刊行は、インターネットを活用したデジタル媒体とし、当館ホームページで公開します。

木曾山林資料館
スタッフ一同